

<特集・短期連載>「いま、原子力発電の是非を問う」

## 「いま、原子力発電の是非を問う」まえがき

(2011年6月16日)

### 「いま、原子力発電の是非を問う」インターネット公開にあたってのまえがき

本紙・行政調査新聞社主である松本州弘は平成2年(1990年)、「いま、原子力発電の是非を問う」と題した著書を世に問うた。今回より数回に分け、同書の全文をここに掲載する。すでに20年以上前に記された同書の内容が、2011年3月11日にわが国を襲った東日本大震災後の、極めて深刻な余波である福島第一原子力発電所問題の背後にある「原発政策」を理解し、また今後われわれがどのような未来を選択すべきかを考える一助となれば、との思いからである。

原子力発電に対する本紙の立場は、やみくもに「反原発」を唱えるものではない。単なる反対ではなく、安全に関する施策を徹底的に確立した上で原発を推進し、さらにその過程を着実に実現した将来において、脱原発そしてクリーンエネルギーへの転換を達成するのが、21世紀以降の地球環境にとって現実的に最適であろうと考えている。いや、正確に言えば「考えていた」。

人間は今後も絶えざる技術革新を打ち出し、知性的でよりよい自己防衛と繁栄の方法を生み出しつづけるであろう、という可能性について本紙は疑いを抱いていない。だが技術革新、新機軸が社会に定着するプロセスにおいて、ときとして思わぬ副産物が発生し、それがよりよき生存の可能性や理念にとって大きな障碍となる。その技術革新がエネルギー問題をめぐる国家的事業であれば、なおさらだ。

原子力発電という新機軸は、原発事業者と原発行政との癒着を生んだ。「原発に反対する奴は冷蔵庫を使うな」と叫んだ代議士も現れた。安全性に対する不安を抱く国民に対して、原発関係者らは「素人が出る幕ではない」「安全なのだから、お上のやることに黙って従っていけばよい」と、高圧的で露骨な官僚的姿勢を示してきた。

戦時中さながらの官民一致、原発挙国体勢……。秘密主義の鉄壁に守られたわが国の原子力業界で、これに表だって疑問を呈する、あるいは批判する公的な力は、見

る影もなくなっていた。

そして、東日本大震災が起きた。

本紙は20年以上前、原発について本紙なりのやり方で模索した。原発とは、果たして推進すべきものなのか、廃絶すべきものなのか。推進すべきなのであれば、そこに懸念される問題はどうか解決するのか。未来のエネルギーすべてを原発に置き換えるべきなのか、あるいは暫定的に原発に依拠しても、ゆくゆくは脱原発を目指すべきなのか。あるいは、原発はいま直ちに廃絶されなければならないものなのか。

そもそも何のために、原発は必要なのか。「必要だ」というコンセンサスは、いったいいつ国民のあいだに形成されたのか。

原子力発電が日本の将来にとって、本当にプラスになる国家的事業であるならば、その発展と継続は守り抜かれなければならないだろう。しかし現行の原発は、果たしてどうなのか。電力事業者の経済的利益を計ることを第一の目的とするものであるならば、現在および将来において、不可避的な危険を伴うことは眼に見えている。「原発推進」か「原発廃絶」か。本紙が考えをまとめるにあたり、まずやらなければならないのは、事実関係の完全な掌握であった。

こうした見解に沿って、本紙は原発事業者(九州電力株式会社)ならびに原発関係機関(電気事業連合会・原子力部長等)に「公開質問書」を提出した。しかし本紙の努力は空しかった。数度におよぶ本紙の公開質問に、原発事業者・原発関係機関が示した姿勢は、基本的には問答無用という感じの、通り一遍の対応に終始するものであったからだ。

先に述べたとおり、本紙は原発問題について、最初から「反対」と決めつけていたわけではない。そのため本書は、一般の反原発・脱原発の書物とは趣を異にしている。だが我々が原発肯定の条件にしている「安全性の確認」という点については、原発肯定・原発反対の別なく共通するものがあるはずだ。特に、現在のわが国原子力界が有する基本姿勢、すなわち「国民不在」の原子力行政、「市民不在」の原発事業、「住民不在」の出力調整運転の強行等は、たとえ、その立場は「肯定」と「反対」にわかれているにしても、それ等に対する怒りという点においては、共通の基盤に立つものといえる。

本紙は、これからご紹介する「いま、原子力発電の是非を問う」が、東日本大震災後

の憂うべき現状を改善するための何分かの役割を担い、21世紀のわが国のエネルギー問題に、些少なりとも寄与することができることを念じてやまない。

なお本書は平成元年(1989年)執筆、翌年に出版された。そのため本文中の一部表記(「現在」「昨年」「今年」など時間を指す言葉、あるいは「ソ連」など現存しない国家名)は、当時のままであることをご了解願いたい。